

山本 裕治 (やまもと・ゆうじ) 先生

株式会社第一興商 常務取締役・社長室長

1948年 広島生まれ。

1972年 広島大学政経学部卒業。

野村證券(株)入社。その後リース会社、商社を経て、

1991年 (株)第一興商入社。社長室長、制作本部長、

メディア事業本部長を歴任。

現在、常務取締役 社長室長



参考文献、参考になるHP

*カラオケ白書 2008 (全国カラオケ事業者協会)

*カラオケ文化産業論 (野口恒編著 PHP 研究所発行)

*社団法人日本音楽著作権協会HP (<http://www.jasrac.or.jp>)*社団法人日本レコード協会HP (<http://www.riai.or.jp>)*株式会社第一興商HP (<http://www.dkkaraoke.co.jp>)

〈講義概要〉

他業界での経験を活かし、カラオケ産業の第一線でその発展に尽力する、株式会社第一興商常務取締役兼社長室長の山本裕治氏が、カラオケ文化についての講義を行った。

講義ではまず、カラオケの誕生からの歴史や現状、さらには今後の展望について詳しく解説。カラオケが日本人の国民性に支えられ発展してきた歴史などから、エンタテインメント産業の成長の考察に関する新たな視点を示した。その後、カラオケの今後の展開についても示し、他にどのような可能性があるのか考えるきっかけを学生に投げかけた。また、カラオケに関する著作権についての説明を行い、受講生は本講座の大きなテーマである著作権について、より具体的な理解を深めた。

さらに、山本氏自身の経験を踏まえながら、「夢に向かって努力する」ことの大切さについても力強く言及し、学生に希望を与えた。

《受講生の感想》

カラオケという一つの文化を見つめて、娯楽もしくはその在り方というものは時代の流れと共に変化しつつも、変わらない理念を持っている部分もあり、それは「人を楽しませる」ということだと思いました。何だか言葉だけではシンプルのように感じましたが、カラオケの場合は楽しむ人達の気持ちや生活の変化がその在り方に変化をもたらし、また、今も変化しつづけているのであろうと思います。

立命館大学・産業社会学部・6回生

今までの講義を通して、長い歴史をもつ事業はしっかりとしたコンセプトがあり、時代にのりながら変化し、今後の方向もいくつか考えがあり、常に世間に目を向け私たちを楽しませるためにいろんな努力がなされている共通点を見つけました。大好きなカラオケが時代にのりながら、これからどのように変化するかとても楽しみです。

立命館大学・産業社会学部・1回生

エンタテインメント業界には常に著作権が付きまとうんだなぁと思い、著作権の知識をこれから生きていく現代人の1人1人が当たり前の知識として理解しておくべきだと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

カラオケはここ数年で本当に進化して、コンテンツもますます充実していきっており、毎回カラオケに行く度に驚かされます。ただ曲に合わせて歌うことだけでなく、全国の人とコミュニケーションをとれる媒体としても成長していたりと積極的なビジネス展開をなさっていて、アイデアを生む創造力に限界はないんだなと思いました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

今後エンタテインメント産業は、参加型になると山本先生はおっしゃっていましたが、ネットのリアルタイムのチャットなど、相互コミュニケーションが可能なものに人気があるよう、カラオケも相互コミュニケーションができるようになっていけばいいのではないのでしょうか。

京都女子大学・現代社会学部・3回生

今回の中で特に気に入ったのはエルダーカラオケです。これは、本当に素敵なことだと思います。年をとっても、大半の人は歌が好きだと思うし、ポケ防止に繋がるなんて、心身共に若返りそうなのでもっともっと広まっていけば良いなと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

